

2- 若手研究者育成活動

本プログラムの目標のひとつは、新しい研究分野を切り開く能力と勇気を持つ研究者を育成することである。具体的には本拠点形成の中で、京都大学の伝統である「研究を通しての教育」によって、広い視野と高い専門性、さらには高い独創性と志を持つ若手研究者を育成し独立させていくことを目指した各種の教育プログラムを実施してきた。その中核となる制度としてフロンティア研究制度を設けた。フロンティア研究制度は、大学院博士後期課程学生を含む若手研究者が自立して自由な研究を行うための競争的研究費制度であり、申請書をもとに総括班で審査の上、採否を決定し、全員に成果報告書の提出を義務づけている。科研費等の自由な研究課題設定による応募とは異なり、本拠点テーマについて自らの進めている研究テーマとの関連を見いだし、新しい視点から自身のテーマを捉え直す機会を提供できたと評価している。平成15年度は43件、平成16年度は37件、平成17年度は52件、平成18年度は47件を採択している。

以下では、海外研究機関との若手研究者交流、21世紀COE複雑系機械工学セミナー、武者修行制度等、特徴ある取り組みについて紹介する。

海外研究機関との若手研究者交流
21世紀COE複雑系機械工学セミナー
武者修行制度

